

「図書館情報学特論Ⅲ」の進め方（5月以降）について

（注：このファイルは授業資料を再構成したものです。）

- ◆ テキスト（A Framework of Guidance...）に基づく授業の進め方（5/11～6/29）
 - * テキストの内容（下記参照）を適宜区切り、各履修者に割り当てを行う。
 - ・ コレクション（collections）：指針 1～9
 - ・ 資料（objects）：指針 1～6
 - ・ メタデータ（metadata）：指針 1～6
 - ・ プロジェクト（project）：指針 1～6

 - * 担当者は以下の要領で、資料を用意して発表を行うこと。
 - ・ ①テキストの中から割り当てられた分の紹介：10分程度。逐語訳を行うのではなく、内容のポイントを的確に、かつ分かりやすくまとめること。
 - ・ ②テキストで触れられた文献や情報源の紹介：20～30分程度。ひとつまたは複数の文献や情報源を選び、その内容を紹介すること。また、自分の研究上の関心ないし個人的関心に合う点、疑問に感じた点などもまとめておくこと。
 - ①の内容に合致するものであれば、テキストで触れられていない文献・情報源（日本語のものも可）を紹介することも認める。
 - 実際にネットに接続して文献・情報源を紹介することも積極的に薦める（PCとネット接続は古賀が用意、あるいは担当者で用意）。
 - ・ 担当者は1週間程度前に、授業内ないし授業用ML（準備中）で②の文献・情報源について連絡すること。
 - ・ 担当者以外の履修者は、①のテキスト割り当て分（可能ならば②の文献・情報源）をあらかじめ読み、討議に参加すること。
-

◆ 第11回（6/29）課題

「デジタルコレクションをめぐる活動のマーケティング、あるいは図書館・文書館・博物館のマーケティング」を考える

1. 以下の「レファレンス協同データベース」のサイト（国立国会図書館）から、興味深いと考える事例を取り上げること。また、このデータベースについて、あるいは図書館のレファレンス活動について、どうすれば効果的な「マーケティング」ができるか、考えること。

（トップページ）<http://crd.ndl.go.jp/jp/public/>

（データベース）<http://crd.ndl.go.jp/GENERAL/servlet/common.Controller>

2. 1.以外に、「図書館・文書館・博物館のマーケティング（特にデジタル資料を用いたもの）」について興味深い事例があれば紹介できるようにすること。